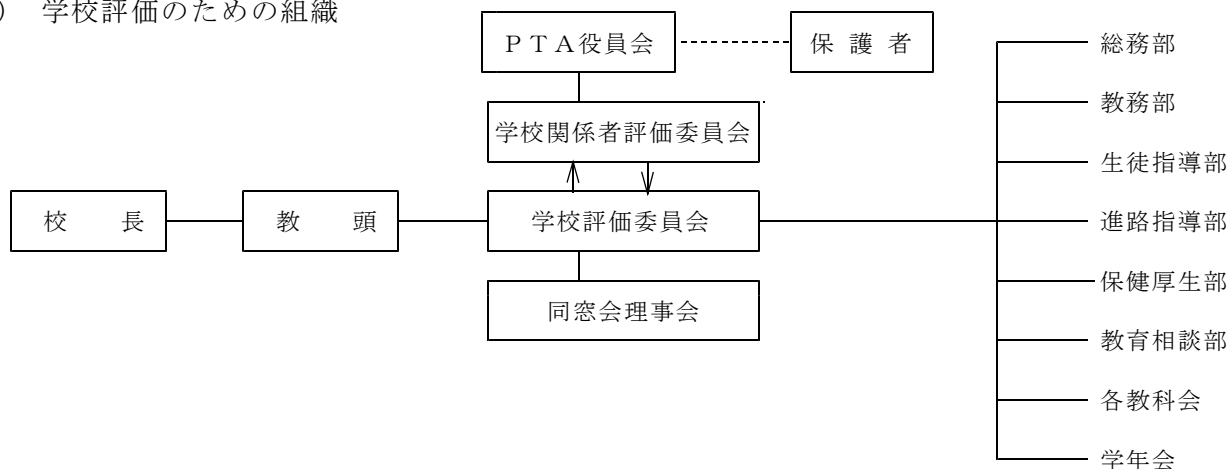


8 学校評価

(1) 学校評価のための組織



(2) 学校評価の年間計画

8	・評価アンケートの実施	
9	・中間評価の報告（評価シートへの入力）	
10		・学校関係者評価委員会…中間評価アンケート記入
11	・中間評価の報告（HP等）	
12	・評価アンケートの結果報告（職員会議等）	
1	・評価アンケートの結果報告（HP等）	
3	・本年度の評価結果と改善点の検討（評価シートへの入力） ・本年度の評価結果と改善点の検討（職員会議・HP等）	・学校関係者評価委員会…最終評価アンケート記入 ・学校関係者評価委員会の評価結果報告（職員会議等）

(3) 本年度の学校評価

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
本年度の重点目標 学習指導（教務部）	教訓「明るく、正しく、たくましく」のもと、コミュニケーション能力や基本的な生活習慣を身に付け、知・徳・体の調和のとれた人間形成を図りながら、社会の変化に主体的に対応できる自立した生徒を育成する。 ・基礎学力の向上 ・学習指導の向上 ・読書力と授業態度の涵養	・長期休業中及び休業後、また考査前の授業後などの学習指導や課題提出指導を充実する。 ・成績資料等から、個々に応じた学力面の課題を見付け、学年団と情報を共有して対応する。 ・欠課時間数過多の生徒の指導を段階的に進める。 ・公開授業週間等を利用して、教員間で指導方法を改善していく機会を設ける。 ・視聴覚教材の利用を勧め、より分かりやすい授業改善を行う。 ・長期休業中などの課題等を充実し、学習習慣の定着と授業内容の補充を図る。 ・図書館便りを定期的に発行し、図書館展示等の活動を通じて、生徒の自主的な活動を促す。	・学年団の協力のもとに、考査前などに対策学習会等を企画する。 ・個々の学力に応じ、前年度に引き続き継続的な指導を行う。 ・担任や他分掌との連携を密にして、指導を行う。 ・できるだけ多くの先生方に授業参観をしていただけるように配慮する。 ・PC室やプロジェクターの利用を勧める。 ・春秋の連休も含めて家庭学習課題を充実する。 ・部活動や委員会活動を通じて、生徒の自主的な活動を促す。 ・お薦めの本など、より生徒が読書に関

		<ul style="list-style-type: none"> ・朝読会を通じて、落ち着いて授業が始められる習慣と、読書力を養う。 ・午後授業の巡回を行い、授業態度を教員全体で指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 心がもてるような工夫を行う。 ・全教員が協力して、生徒指導を行う。
生徒指導 (生徒指導部)	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ指導の徹底 ・規範意識の向上 ・生徒会活動を通じた学校の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに定められた校則を違反することなく、丈の長さを意識してスカートを履くことや、正しくシャツを着こなすことを徹底する。 ・化粧をせず、装飾品も身に付けずに学校生活を送る。 ・身だしなみ、交通安全、SNS利用を始めとするルールについて「ダメなものはダメ」という毅然とした態度で接する。 ・SNS、スマートフォンの正しい使用方法を学ぶとともに、継続した指導を行う。 ・いじめの未然防止と早期発見を行い、担任等との連携を密にして対応に当たる。 ・朝の挨拶運動、つばラジなど全校生徒が生き生きと学校生活を送ることができる活動を行う。 ・生徒が学校への帰属意識を高めるとともに、地域を愛し、地域から愛される学校となる活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、学年、生徒指導部が連携して指導し、継続した声かけを忘れない。 ・化粧は落とし、装飾品は外させる。繰り返しの指導でも改善しない場合は厳しい指導を行う。 ・ルールやマナーについて全校生徒で共通理解をもつ。そして、生徒の声に耳を傾けて指導にあたる。 ・生徒間の些細なことでも「いじめではないか」という意識をもって認知すると共に早期対応を行う。 ・学校の課題を生徒自らが改善できるように、生徒会を通じて働きかけていく。 ・地域貢献活動やボランティア活動などに積極的に参加していく。
進路指導 (進路指導部)	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の各クラス担任との連携を図る。 ・進路関連行事の充実と更新を具体的に検討する。 ・現実社会の中で認められる経験をさせる機会を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報交換会で共有する情報を有効に活用しながら、保護者会等での進路相談と支援・方策について共通理解を深める。 ・個々の生徒の状況に変化があった場合の連絡を密にして、状況に応じた支援ができるようにする。 ・進路セミナー及び進路ガイダンスを一層充実させる。 ・大きな2つの進路行事を契機に、生徒個々が自分自身の将来設計について積極的に考えられるように支援する。 ・保健厚生部とも連携しながら、各種のボランティア活動や社会での活動等に積極的に参加することができる雰囲気作りを支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員だけでは支援できないと判断される問題については、スクールソーシャルワーカーや行政機関とも積極的に連携を図れるようにする。 ・生徒個々の家庭環境の変化にも注意深く配慮しながら、学校教育の中で支援できる事柄を明確にしていくことができるようにする。 ・社会福祉協議会や企業とも連携し、生徒の安全性にも留意しながら計画的に進める。
地域連携 (総務部) (広報委員会)	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金の手続きの改良 	<ul style="list-style-type: none"> ・当初から給付型奨学金も含めた奨学金の要項を作成し、生徒への説明、手続きを行う。 ・給付型奨学金の候補者の決定プロセスについて、推薦枠の取り決めや全日制との日程のすり合わせ等を行い、スムーズな手続きを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒への情報提供をできるだけ早く行う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA役員会、総会の充実 ・同窓会入会式の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・期日について、全日との打合せをして、できるだけ重ならないように工夫する。 ・PTA総会時の駐車場についての全日制への案内文書を改良する。 ・役員会での司会者の進行表を工夫し、進行がスムーズに行えるようにする。 ・綿密な事前の全日制との打合せを行う ・全日制と打ち合わせた内容に基づいて、翼キャンパス内の卒業学年の担任団との打合せを行う。 ・代表生徒の打合せの日時を工夫し、翼の代表生徒が参加しやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全日製の期日について、頻繁な情報収集に努め、翼の予定考察の参考とする。 ・全日制への案内文章には案内図を掲載し、分かりやすくする。 ・全日製の代表生徒の練習日を早めに確認し、翼の日程を考慮して、参加日程を決定する。
<p>学校保健 (保健厚生部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・検診機会の増加、受検率の向上を図る。 ・委員会活動や奉仕活動を通じて、生徒自ら環境美化や健康維持に対する活動を行う。 ・ゴミの分別等、環境教育の実施し、環境美化意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検診日程を欠席の少ない年度当初に設定して受検率を上げるとともに、欠席者にも考慮して、予備日を設け、全日制と協力するなど、複数回診察日を設ける。また、長欠者に対しては、担任と協力して働きかけを行う。 ・定期的に行っている校内のボランティア清掃以外にも、生徒会と協力して、校外ゴミ拾い等の奉仕活動ができるように、企画していく。 ・文化祭等を通じて、生徒自らが健康について考え、発表する機会を持つことで、主体的に生きる力を養う。 ・通常清掃では、全教員で指導し、生徒の環境美化意識を高める。また、特別教室の清掃については、特別清掃を定期的に行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検診日程は医療機関と相談の上、最大限考慮する。 ・長欠者に対しては、検診の必要性を、担任の協力の下で理解していただく。 ・定期考査の期間等を利用して、定期的に奉仕活動が行えるように企画する。 ・保健委員会を行い、自ら健康について考える機会を設ける。 ・通常清掃では性別を考慮して指導区域を決める。
<p>教育相談 (教育相談部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の抱える諸問題解決のため、スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）及び外部諸機関と連携し、協働できる体制の確立を図る。 ・職員間で生徒の情報を共有するとともに、役割分担をはっきりさせ、学校全体で生徒指導にあたることのできる指導体制を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような事例にSC、SSW及び外部諸機関が関わることができるか実践的に探る。 ・できるだけ多くの教員がSC、SSWと協働して問題解決にあたる経験を積む。 ・教育相談連絡会を月一回開催し、情報を共有するとともに、対応の難しい事例については、ケース会議を開催し、対応を検討する。 ・SC、SSWとの連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SC、SSWの役割を教職員に周知する。 ・SC、SSWと教員とが連携、協働できる体制づくりを進める。 ・生徒情報の報告にとどまらず、学校全体で指導にあたる方策を検討する。 ・SC、SSWの来校日の日程調整に配慮する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・社会状況の変化や時代の要請に応じた生徒の支援、指導ができるよう、教職員のスキル向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内で現職研修の機会をもつ。 ・外部の研修会等に様々な教員が積極的に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の直面している課題について、実践的に研修する。 ・貧困対策、特別支援教育、いじめ防止、自殺予防などについて研修の機会をもつ。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> ・読書力と授業態度の涵養について ・学校いじめ防止基本方針に基づく取組について ・現実社会の中で認められる経験をさせる機会を与えることについて ・奨学金の手続きの改良について ・生徒自ら環境美化や健康維持に対する活動を行うことについて ・勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止について 	

(4) 前年度の学校評価

ア 自己評価結果等

前年度の 重点目標	コミュニケーション能力や基本的な生活習慣を身に付け、知・徳・体の調和のとれた人間形成を図りながら、社会の変化に主体的に対応できる自立した生徒を育成する。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
学習指導 (教務部)	<ul style="list-style-type: none"> ・読書力と授業態度の涵養 ・基礎学力の向上 ・学習指導の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館便りを定期的に発行し、読書への関心を高めるとともに、図書委員会の活動を通じて、生徒の自主的な活動を促す。 ・朝読会を通じて、落ち着いて授業を始められる習慣と、読書力を養う。 ・長期休業中及び休業後、また考查前の授業後などの補充授業計画を充実する。 ・成績資料等から、個々に応じた学力面の課題を見付け、学年団と情報を共有して対応する。 ・公開授業週間等を利用して、教員間で指導方法を改善していく機会を設ける。 ・視聴覚教材の利用を勧め、より分かりやすい授業改善を行う。 ・長期休業中の課題等を充実し学習習慣の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書便りは定期的に発行できており、文化系部活動の参加も得て、企画展を定期的に行った。 ・朝読会では、読書習慣の改善に一定の効果がみられた。 ・歴史、科学漫画など生徒が受け入れやすい本を各教科から紹介してもらい、生徒に薦めることも検討する。 ・1、2年生の学年団の協力を得て、考查前に課題の提出指導を行い、成績不振の改善に努めた。しかし、指導から逃れるために欠席するなど、問題点も見られた。 ・夏期休業中の学習指導では、複数の教員で個々の生徒の指導にあたり、一定の成果が得られた。 ・年度の早い時期に公開授業週間を設け、授業研修の機会をつくった。 ・午後授業の科目を含めて休業中の課題を充実させ、家庭での学習習慣の定着を図った。 ・非常勤の先生方も含め、生徒情報の共有を徹底し、授業改善に努める。
進路指導 (進路指導部)	<ul style="list-style-type: none"> ・進路関連行事の充実と更新を検討する。 ・学年団との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路セミナー及び進路ガイダンスのより一層の充実を図ると同時に、生徒個々の将来設計について積極的に考えられる機会を提供できる進路指導を計画的に実施する。 ・年間3回実施予定の情報交換会を有効に活用しながら、保護者会等での進路相談と支援方法について共通理解を深める。 ・個々の生徒の状況に変化があっ 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路意識を高揚させる手段は、年間を通して継続的に実施することが最善の方法であると考え、今後年間を通じた指導方法の構築を検討していくことを重点目標としていきたい。 ・生徒の家庭状況と生徒個々の意志を明確に掴むことが非常に難しい状況が存在し、今後も継続して同じような状況が続くと想像される。 ・学年団の職員と共に、適時・的確に判

	<ul style="list-style-type: none"> ・現実社会の中で認められる経験をさせる。 	<p>た場合の連絡を密にし、状況に応じた支援策が考えられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健厚生部とも連携しながら、各種のボランティア活動を通して、社会参加の経験をさせる。 ・アルバイトやボランティア活動に参加することで、社会との繋がりを実体験できるように支援する。 	<p>断し情報を共有できる体制を構築できるように進路指導部として協力していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化に主体的に対応できる自立した生徒を育成するためには、在学中での達成目標を生徒に明確に示す必要がある。 ・同時に、如何に評価して生徒自身の向上心に訴えることができるかという視点での指導方法を検討していく必要がある。
<p>生徒指導 (生徒指導部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ指導の更なる徹底 ・規範意識の向上 ・生徒会活動を通じた学校づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度はシャツのボタン、襟出しをする生徒が減り、声かけによる一定の成果が見られた。今年度はシャツ出しをなくす、スカート丈を長くすることを繰り返し指導して意識させ、一歩ずつ改善させる。 ・自転車乗車マナーの向上を図り、生徒の安全を確保する。(特に傘差し運転、イヤホンをなくす。) ・SNS、スマートフォンの正しい使用方法を学ぶとともに、継続した指導を行う。 ・学校生活アンケート(いじめアンケート)によるいじめの未然防止と早期発見を行い、担任等との連携を密にして対応に当たる。 ・行事だけでなく日々取り組める活動を通じて、より良い学校が築けるよう行動する。 ・ボランティア活動など外部と交流する機会を設け、コミュニケーション能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スカート丈が極端に短い生徒は減ったが、来春からの校則基準よりも短い生徒は多くいる。移行期間を含めて、来年1年間は指導を繰り返して校則を定着させたい。長袖シャツの裾出しは「言えば直す」の繰り返しである。正しい服装で家を出ることからの意識付けを促したい。 ・自転車の後輪脇に挟まれた傘の一時預かりなどをした結果、傘差し運転がほとんどなくなった。定期的なセルフチェックの効果もあり、SNSによる人間関係のトラブル報告が激減した。ただし、バレなければ社会や学校のルール・モラルを破ってもよいという生徒もおおり、繰り返しの指導が必要である。 ・つばラジの放送、学校祭における新たな取り組みなど自主性が更に発揮され活性化してきた。学校周辺の清掃活動や一宮駅周辺のイルミネーション製作など外部に向けた活動にも取り組めた。一方で、執行部内におけるコミュニケーションが十分に図られず、人間関係に影響が出たこともあった。
<p>地域連携 (総務部) (広報委員会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術鑑賞会の充実を図る。 ・合格者説明会の改良を図る。 ・保護者会の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい会場となるので、下見と、業者と綿密な打合せを行い、会場の特徴を把握する。 ・新たな会場の特徴に応じて、事前指導の方法、チケットの配付方法、生徒の集合の仕方、教員の役割等について考慮する。 ・新しく見やすくなったスクリーンを進路講話で活用する。 ・業者用の駐車場をあらかじめ確保し、業者による荷物の搬入の利便を図る。 ・物品購入の場所を1階の教室に配置し、荷物の運搬等をしやすくし、生徒、保護者の移動をスムーズにする。 ・従来、6月下旬に行われていた保護者会を7月中旬に開催することで、学校側が進路に関する情報を把握し、生徒や保護者にその情報を提供しながら、話し合いを行うことを可能にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい会場に対して、下見での業者との綿密な打合せや会場までの通路や会場内の配置等のチェックを行い、内容の把握をしっかりと行うことができた。 ・生徒への事前の指導や当日の誘導、集合をスムーズに行うことができ、参加者の割合も過去に比較して増加させることができた。 ・進路講話については、新しいスクリーンを活用して説明を行うことができ、保護者にも好評であった。 ・業者用の駐車場をあらかじめ確保して、荷物の搬入の利便を図ることができた。 ・物品購入の場所を変更することによって、荷物の運搬等をしやすくし、生徒、保護者のスムーズな移動が可能になった。 ・進路指導部との協力を得て、保護者会の時期を変更することで、生徒や保護者により多くの進路に関する情報を提供し、それに基づいた今後に向けてのより具体的な話し合いを行うことができた。 ・話し合いはできたが、それでも十分とは

		<ul style="list-style-type: none"> ・学校での様子やその対応を保護者に伝え、今後の対応に活かす。 	<p>言えない場合もあるので、他の機会を利用して、今後についてよりしっかり考えてもらう必要があると思われる。</p>
<p>学校保健 (保健厚生部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・検診機会の増加、受検率の向上を図る。 ・委員会活動や奉仕活動を通じて、生徒自ら環境美化や健康維持に対する活動を行う。 ・ボランティア活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期健康診断の日程を欠席の少ない年度当初に設定するとともに、全日制と協力して、検診機会を増やし、受検率を向上させる。また、長欠者や検診を拒否する生徒については、担任と協力して受診を促す。 ・通常清掃で、教員の指導の下に校内清掃を徹底するだけでなく、美化委員会、有志を募って、定期的に美化活動を行う。・文化祭等を通じて、生徒自らが健康について考え、発表する機会をもつことで、主体的に生きる力を養う。 ・社会福祉協議会などと連携をとりながら、各種のボランティア活動等を通じて、コミュニケーション能力を高め、自己肯定感を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検診の受検率は、長欠の生徒を除けば全て9割以上であり、例年と同様であった。今後も日程調整等の工夫を行っていきたい。 ・2年間歯科検診を拒否する生徒がいたが、養護教諭と学校歯科医の連携により、検診後に歯科受診を行うことができた。今後も粘り強く指導を継続させたい。 ・定期的に校内の美化活動を行うことができ、美化委員や生徒会だけでなく、有志も多く参加できている。 ・文化発表会での「脳育」では、保健委員を中心に脳トレなど生徒発表を行うことができた。来年度にもつなげていきたい。 ・11月18日に社会福祉施設でのボランティア活動に有志数名が参加し、自主的に活動できた。少人数の参加者であったため、積極的に働きかけをして、参加者を増やしていきたいと思う。
<p>教育相談 (教育相談部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の抱える諸問題解決のため、スクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)及び外部諸機関と連携し、協働できる体制の確立を図る。 ・職員間で生徒の情報を共有するとともに、役割分担をはっきりさせ、学校全体で生徒指導に当たることのできる指導体制を確立する。 ・社会状況の変化や時代の要請に応じた生徒の支援、指導ができるよう、教職員のスキル向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような事例にSC、SSW及び外部諸機関が関わることができるか実践的に探る。 ・できるだけ多くの教員がSC、SSWと協働して問題解決に当たる経験を積む。 ・教育相談連絡会を月一回開催し、情報を共有するとともに、対応の難しい事例については、ケース会議を開催し、対応を検討する。 ・SC、SSWとの連携を図る。 ・校内で現職研修の機会をもつ。 ・外部の研修会等に様々な教員が積極的に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SSWと教員及び外部機関が連携、協働でき、問題解決につながった事例があった。 ・SCが交代し新しい先生となったが、情報交換会や講演会を行い、速やかに連携体制を築くことができた。 ・教育相談連絡会を毎月開催し、情報共有と指導方法の確認を図った。 ・SCとSSWの連絡協議の機会をもつことができなかった。 ・教育相談支援員がSCとSSWとの間をつなぎ、情報共有できるよう計らった。 ・SCによる研修会をもつことができた。 ・高等学校における特別支援教育について研修の機会をもつことができた。 ・経験豊富な臨床心理士を助言者に招いて、事例研究の機会を年4回もつことができた。
<p>総合評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部と1、2年生の学年団が協力して、考査前に課題の提出指導を行い、成績不振の改善に努めた例のように、分掌と学年団との協力により、より効果的な教育活動が実施することができた。今後も進路指導部と該当する学年団との協力により、適時・的確に判断し情報を共有できる体制の構築を目指すなど分掌と学年団との協力が大切になってくると思われる。 ・また、保護者会やその後の話し合いに関する総務部と進路指導部の協力のように分掌間の協力、連携によって、より効果的な内容にすることができている。 ・その他、学校保健における養護教諭と学校医の連携や教育相談におけるSSWと教員と外部機関との連携、協働の事例のように、外部の機関との協力体制もますます重要になってきていると感じられる。 ・つばラジの放送、学校祭における新たな取組などの生徒会活動や定期的な校内の美化活動、社会福祉施設でのボランティア活動など生徒の自主性が発揮され活性化してきた。今後も生徒の達成感や自信につながるよう積極的に生徒に働きかけていきたい。 		

イ 学校関係評価結果等

学校関係者評価を実施した 主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動を通じた学校づくりについて ・生徒自ら環境美化や健康維持に対する活動について ・現実社会の中で認められる経験をさせることについて ・基礎学力の向上について ・学校いじめ防止基本方針に基づく取組について
自己評価結果について	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちができることを増やしてあげるという意味で、課外学習での企画、実践は生徒たちに自信を与える活動であったと思います。 ・分掌別課題取組表では評価のAが多く見受けられました。重点目標は、達成されていることが多いと思います。
今後の改善方策について	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも生徒に任せ、生徒が自ら企画できる場の設定を期待します。
その他（学校関係者評価委員 から出された主な意見、 要望）	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょっとしたことでメンタル面でつまづきやすい生徒たちですが、先生方の見守りは確実に一歩ずつ生徒の心に届いていると思います。 ・以前に不登校を経験している人たちが、とても楽しそうに学校生活を送っている姿をよく目にします。それはやはり先生方の声掛け、目配り、気配りによるものだと思います。 ・生徒自身が学校行事により多く参加できるように考えたり、校内放送を立ち上げたりして、生徒に自信をもたせることができる環境を作っていこうとしている先生方の努力がすばらしいと思います。 ・多くの子供たちがお世話になっており、深く感謝します。
学校関係者評価委員会の構 成及び評価時期	<ul style="list-style-type: none"> ・構成…学校評議員5名（PTA会長を含む） ・評価時期…3月中旬

(5) 経営管理上の問題点等

ア 全日制課程との連携

本課程は11年度より設置された課程であり、学校運営のあらゆる分野において、全日制課程と情報及び意見交換をすることにより全校的な協力体制を築く。

イ 教育課程、教科指導の充実

- (ア) 生徒の学習歴や能力・適性及び将来の進路希望等に応じる柔軟な教育課程の編成に努める。
- (イ) 基礎学力の向上を図るため、教材開発や指導方法及び評価法の工夫・研究に努める。

ウ 生徒指導・教育相談の充実

- (ア) 教職員と生徒との信頼関係の中で、規範意識や基本的な生活習慣を身に付けられるように、温かく、かつ、粘り強い指導を行う。
- (イ) 遅刻や欠席の増加を早期に把握し、不登校にさせない体制づくりや身だしなみ指導を徹底する。
- (ウ) 家庭との連携を密にし、個々の生徒の課題に迅速に対応し、精神的に不安定な生徒への対応、各種疾病等への対応について、適切に助言し、実践的に行動する。
- (エ) 安全教育に万全を期する。特に、交通安全に十分留意する。

エ その他

- (ア) 広報委員会を活用し、学校内外への生徒の活動や学校の現状をPRすることによって、生徒の自信や満足度の向上を目指す。
- (イ) 学校評価の取組課題・具体的方策を現実に即したものに設定し、実践・評価・改善へと円滑に取り組むことができるように努める。
- (ウ) 現職研修の充実を図る。
- (エ) 校内美化に努め、環境に対する意識の高揚を図る。